

# 登別中学校 学校適正配置に関する地区別検討委員会 第6回教育環境部会 議事録

**日時** 令和4年8月25日（水）18時00分

**会場** 登別市婦人センター講堂（2F）

**出席者** （委員）

飯尾委員、勝間委員、日野委員、坂井委員、斉藤委員、畠山委員  
(幼稚園関係者)

木村さん、杉本さん

(未就学児童保護者)

吉田さん、安藤さん、山崎さん

(事務局)

堀井部長、中島参与、近間総括主幹、蓬田主査

**○部会長** 時間となりましたので、これより「登別中学校 学校適正配置に関する地区別検討委員会」の第6回教育環境部会を開催いたします。

前回は、前々回会議における各委員の意見をご紹介するとともに、前々回欠席された委員の意見も伺いながら、登別中学校の今後のあり方に関し議論しました。その結果、部会としての結論をまとめる前に、さらに未就学児童保護者や幼稚園関係者から意見を聞くほか、小中一貫校の可能性や虎杖浜地区との連携の可能性に関し議論した方が良いのではないかとの意見がありました。

このため、前回の会議後、部会長とその他の委員、事務局で論点を整理し、意見交換の場をセッティングするとともに、小中一貫校の可能性などに関し資料を用意いたしましたので、本日は、まずは意見交換と資料説明を行った後に、その内容も踏まえて協議に移りたいと思います。

それでははじめに、会議次第2として、幼稚園関係者や未就学児童の保護者の皆さんをお招きしておりますので、さっそく意見交換に入りたいと思います。はじめに、幼稚園関係者に来ていただいておりますので、現状を含めて、幼稚園の

運営に関わる者として、登別中学校の統合に関し、どのようにお考えなのか、お聞かせいただきたいと思います。

○**幼稚園関係者** 今回このような場に参加させていただきありがとうございます。今回参加するにあたり、市教委が策定した「登別市小中学校の適正規模・適正配置の指針～将来における小中学校のグランドデザイン～」、文部科学省が策定した「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き～少子化に対応した活力ある学校づくりに向けて～」も見させていただきましたし、地区別検討委員会の議事録なども確認させていただきました。市教委のグランドデザインにおいては、登別中学校に関しては、令和7年度に、幌別中学校と統合することが想定されているわけですが、令和7年度に統合となりますと、令和4年度の後半にはある程度結論が出ていなければならないと思います。そのあたりも含めて、最終的にはこのような結論になるのではないかとこのところをペーパーにまとめさせていただきました。我々幼稚園関係者として、乳幼児を持つ保護者の皆さんと接しているわけですが、白雪幼稚園の保護者の方で、東京から登別地区に移住し、家を建てた方がいらっしゃいます。その方に話を聞きますと、中学校が無くなることであらかじめわかっていたら、この地区に家は建てなかったとおっしゃっていました。このことからわかるように、中学校が無くなってしまえば、新たにこの地区に家を建てる方も居なくなってしまう。そうすると高齢化率も上がり、町内会機能の維持もままならなくなってしまうし、経済も縮小してしまい、町の衰退に拍車がかかってしまいます。当然、ここ数年で急に人口が減少したわけではありませんので、これまでどのような人口増加策をとってきたのかということが問われます。例えば、道南の厚沢部町では、ワーケーションなども組み合わせながら、保育園留学というサービスを行い、人口3,500人の町であるにも関わらず、子連れの方の往来が後を絶たないという状況になっているということです。そのようなことも参考にしながら、まずはグランドデザインを一時凍結し、何か他にできることは無いのかを考えるべきではないでしょうか。それでもやるということであれば、学校の統合だけに留まる話ではないので、ここにお集まりの皆さんだけで結論を出すのはかなり重荷なのではないかと感じています。先日、保

護者の方とお話をする機会がありましたが、その多くはこの統合の問題には関わ  
りたくないとおっしゃっていました。というのも、関われば、統合に賛成なのか、  
反対なのか、どちらかに加担することになってしまうからです。結果として、現  
在の議論は、賛成派と反対派の分断しか生んでいないように思えます。子どもの  
数が減っているのは間違いのないことですから、賛成派と反対派の分断を煽るの  
ではなく、子どもの数を維持していくためにはどうすればいいのかということ  
こそ議論すべきではないでしょうか。そうしなければ、温泉地区や札内地区のよ  
うに、次は小学校ということにもなりかねませんし、仮にそのようなことになれ  
ば、町自体が無くなってしまいます。現状は、幼稚園の保護者の皆さんに聞いて  
も、具体的には分からないというのが実際のところかなと思います。以上です。

**○部会長**      ありがとうございます。部会員の皆さんから、何か質問などはありませんでし  
ょうか。それでは幼稚園関係者からお話がありましたので、次に、未就学児童の  
保護者の方はどう感じているのか、お聞かせいただきたいと思います。

**○保護者**      前回も、この地区から中学校が無くなってしまえば、家を新たに建てる人が居なくな  
ってしまうのではないかという話があったのですが、私自身は、いずれ学校統合とい  
うこともあるだろうと思いながら、この地区に家を建てました。というのも、まずは親が近く  
にいる安心感、先輩が近くにいる安心感があります。それによって、子どもたちを見てく  
れる目が多いという安心感、両親だけではなくて、親戚のおじいちゃんやおばあちゃ  
んが身近に居るとい安心感があり、この地区を選びました。また、家を建てるにあたっ  
ても、職場はもちろん、小学校や中学校にアクセスしやすい土地を選びました。仮にこ  
の地区から中学校が無くなったとしても、電車やバスを利用すれば、大きな不便は感じ  
ません。高校に進学すれば、どちらにしてもバスを利用して通学することになりますの  
で、特に苦にならないように感じています。この地区に住む学生は、みんな同じルート  
で通うことになりますので、不安は無いと思います。町が衰退してしまうという意見もあ  
りますが、これについては、仕事を増やすといった対策を考えるべきではと思います。

**○保護者**      私は2年前に登別東町に家を建てて、桜木町から引っ越してきました。幼稚園

からこの地区で育ち、就職し、結婚するタイミングでこの町を出たんですが、子どもが2人生まれて、家を建てるタイミングでこの地区に戻って来ました。もちろんこの地区の子どもの数が年々少なくなって、登別中学校の統合の話も頭にはありましたが、私にとってこの地区はとても居心地が良い町ですので、学校統合の話は知りつつも、この地区に家を建てることを決めました。学校の統廃合に関しては、子ども、親、住民という3つの視点があると思いますが、やはり優先して考えたいのは、子どもの視点です。子どもの成長を考えれば、中学生という大事な時期を、1学年1クラスで、1クラス20人に満たない環境で過ごさせるのはどうなのかと思います。やはり1学年2～3クラスあるような、少し人数の多い環境が必要だと思います。もちろん親の視点から考えれば、どうしても送り迎えなどが生じて手間が増えてしまったり、目が届かなくなってしまうという面はあろうかと思いますが、住民として考えれば、中学校が無くなれば、町の衰退や高齢化に繋がる可能性が心配されるところで、賛成、反対を一口で言うのは難しいところもありますが、やはりこの問題に関しては、子どもの視点で考えるべきだと思います。

**○保護者** 私も登別中学校に統合の話があることを知った上でこの地区に家を建てました。私自身、この地区で生まれ育ち、先輩や後輩といった縦の関係が強かったり、子どもたちが学年を超えて遊んでいたりする環境に惹かれて、この地区で子育てをしたいなと思いここを選びました。私も登別中学校在校中に、旧登別温泉中学校との統合を経験していますが、統合によって、地区に捉われずに横の繋がりができるというメリットはあると思います。私自身、保育所、小学校、中学校をこの地区で過ごしましたが、やはり高校に入学して、人の多さに圧倒される部分がありましたので、統合によって、中学校時代に少し大きな集団を経験するのも良いことなのかなと思います。統合による環境変化に対応できるかという心配はあろうかと思いますが、子どもの成長を間近で見ていると、新しい環境にもすぐ馴染めるのではないかと思います。やはり私としては、子どもの視点が一番重要だと思っていますので、そのように感じています。

○部会長 ありがとうございます。委員の皆さん他に質問などありませんか？

○委員 皆さん、先輩や後輩との繋がりなど、この地区の温かい雰囲気に着かれて、家を建てることを決めたということですが、皆さんのお話に納得しつつも、例えば皆さんの学生時代に既に登別中学校が無く、他の地区の中学校で学んだとして、さらに両親も既にこの地区にいらっしゃらないと仮定した場合に、それでもこの地区に家を建てたか、お聞きしたいと思います。仮定の話になってしまい申し訳ありませんが、いかがでしょうか？

○保護者 私は、それでもやはりこの地区に家を建てたと思います。私自身、他の地域、桜木町や若草町に住んでいた経験がありますが、やはり登別地区は横のつながりがあって、何かあっても助けてもらえるという安心感があります。そういう意味で非常に居心地が良いので、やはりこの地区を選んだと思います。

○保護者 私は、中学校の頃よりも、小学校の思い出が圧倒的に多くて、その時代への思いが強いですし、その時代のつながりが大きいので、ご質問いただいたような状況であったとしても、やはりこの地区に家を建てたと思います。

○保護者 私も、他の地域、室蘭市の高砂地区や札幌市に住んだ経験がありますが、挨拶の返し方ひとつとっても、この地区とはまったく違いますし、この地区の場合、他人でも気にかけてくれる感覚があります。そうした地区の雰囲気によって、子どもの育ち方は全然違ってくると思いますし、親としても安心感があります。また、職場のこともありますし、子どもも中学生になれば、ひとりでバスを利用して行動することが可能ですので、ご質問いただいたような状況であったとしても、やはりこの地区を選んだと思います。

○部会長 ありがとうございます。

○委員 少しお時間をいただけますでしょうか。本日、欠席した委員から、これだけは

伝えて欲しいとお手紙を預かっていますので、この場で発表させて下さい。中学校の統廃合についてということで書いていただきました。読み上げます。今までの会議を踏まえると、子供達の人数が減少しているのが問題であります。子どもたちの事を考えると、子どもたちの人数を増やせばいいのではという風に現時点では考えています。そのために統合が一つの案なのかどうか、それ一本しか提示しない、それが問題ではないでしょうか。では、他にどのような策があるかということで、箇条書きで書いていただいています。学校の教育を特化する。例えば、登別地区には海外旅行者が多いので、義務教育の9年間で、一般会話が出来る程度の英語力を学べる教育を行うなど、英語に特化した教育を行うことも面白いのではないのでしょうか。併せて、地区に捉われず、学校を選べるようにすれば、特色ある教育を行う学校に子どもが集まり、小規模化の問題も解決されるように思いますとのことです。また、これは登別地区に限らず、登別市全体の子どもの数の増加を図るためですが、医療費の控除を行ってはどうかでしょうか。また、登別温泉地区、商業地区、プラス行政で、市外道外から積極的に人を受け入れる方法を検討したらどうかとの意見です。加えて、いずれ人口減少が進むことは何十年も前に分かっていたはずですが、何らかの政策を行っていたのでしょうか。私は3年前に登別に来たこともあり、わからないので教えて欲しいとのことです。また、仮に統合ということになれば、統合前に生徒同士の交流事業を行うことになるのでしょうか、統合することを決めずに、交流事業を行い、その結果なども踏まえて決めたらどうかとのことです。様々な方策をとった上で、統合ということでも遅くはないのではないのでしょうか。様々な方策を検討した結果、統合が一番の解決策ということであれば、私も受け入れることができるとのことです。

**○部会長**      ありがとうございます。他にありませんでしょうか？

**○委員**      地区別検討委員会の議論を進めるにあたっては、教育環境部会とまちづくり部会に分けて、教育環境部会では、子どもたちの教育環境という観点から話し合ってきたわけですが、確かに子どもたちの教育ということを考えれば、ある程度

人数が多い方が良いということになります。私自身も、カルルス地区から温泉地区の学校に通い、その後さらに今の子どもたちは温泉地区から登別地区の学校に通うということになっているわけで、子どもの減少を考えれば、やむを得ない部分はあるのかなと思うのですが、やはり学校の統廃合を考える時には、まちづくりや経済への影響も考えざるを得ないと思いますので、それを私達だけで決めることには不安があります。加えて、子どもの中には、人とのコミュニケーションが得意な子もいれば、不得意な子もあり、統合への反応もそれぞれだと思いますので、部会長と相談し、保護者や幼稚園関係者の意見を聞く場を設けてもらいました。また、さきほど幼稚園関係者から、ここに至るまでの間に、行政は人口を増やすために何をやってきたのかというお話がありましたが、そうした意味で、統合を提案する前に、人口増加策も含めたより大きなランドデザインが必要なのではないかと思ったり、そうでなければ、これまでまちづくりに関わってきた方達の納得を得るのはなかなか難しいのではないかと思ったりします。部会長の言うとおり、教育環境の観点から、これまでこの部会では、各方面との意見交換やその結果を踏まえた議論を積み重ねてきましたので、部会として結論を得なければならぬというのともわかるのですが、部会を分けたこの状態では、賛成派と反対派の分断しか生まれないのではないかと思ったりします。そうした意味で、議論を地区別検討委員会本体に戻すことも含めて検討しなければならないのではないかと思ったりします。

**○部会長** ありがとうございます。未就学児童の保護者や幼稚園関係者の皆さんのお話は概ね聞けたものと思いますので、これで意見交換は終了したいと思いますが、よろしいでしょうか？

**○委員** 幼稚園関係者にお聞きします。義務教育については、親に教育を受けさせる義務があるわけですが、小学校、中学校という義務教育において、最も大事なことは何だと思えますか？

**○幼稚園関係者** 親の責任として、義務教育において、最も大事なことは何かということによ

ろしいでしょうか？

○**幼稚園関係者** 正しい答えがどこにあるのかは分かりませんが、私としては、義務教育課程の中で最も大事なことは、自分で生き抜く力を身につけさせることだと思います。その上で、高等学校以降の課程では、専門的な知識を習得していくことになるのだと思います。

○**部会長** ありがとうございます。第1部はこれで終了したいと思います。休憩を挟みまして、第2部では、部会員のみで議論したいと思います。ありがとうございました。

### (参加者退席)

○**部会長** 再開します。次に、会議次第3「資料説明」の「(1)小中一貫校の設置と虎杖浜地区との連携の可能性」についてです。前回、委員より、登別中学校と登別小学校をひとつにする形で小中一貫校を設置し、虎杖浜地区から子どもを呼び込むことで学校の規模を維持できないかとの意見がありました。その可能性に関し事務局で資料をまとめておりますので、説明をお願いします。

○**事務局** (事務局より資料に基づき説明)

○**部会長** 事務局より、「(1)小中一貫校の設置と虎杖浜地区との連携の可能性」について説明がありました。ただいまの説明について、質問や意見などはありませんでしょうか？

○**委員** 小学校や中学校の代表としていらっしゃる委員の皆さんは、他の保護者から質問される立場になると思うのですが、よろしいのでしょうか？

○**委員** 虎杖浜地区との連携については、保護者にとっては現実的な話ではないと思い

ます。ただ、保護者の皆さんが、登別中学校の統合の話自体を理解している状況にはないと思います。PTAの三役や学校運営協議会、校長や教頭は状況を把握していますが、一般の保護者については、新聞で統合が報じられた時点で情報は止まっているように思います。そうした意味では、広く保護者の方を対象に説明会を開いたり、意見を聞いたりということを考えてもいい時期なのかなと思っております。

○委員 私としては、虎杖浜地区との連携という案は無いと思っていますし、私自身は、いまの事務局の説明で理解しました。ただ、PTAの代表としていらっしゃってる皆さんが一般の保護者に質問された時に、さきほどの説明だけで十分に説明できるのか、教育委員会の説明だけで十分なのかはわかりません。例えば5年後、10年後に、様々な方策を検討したのかと問われた時に、今の説明だけで十分なのか。それが心配です。

○委員 説明しきれません。

○委員 せっかくの機会だから、どんな小さいことでも聞いておいた方がいいと思います。

○委員 どうしても小学校、中学校のPTAが中心になってしまいますので、未就学児童の保護者の話を聞くべきと考え、さきほどのような場を設けてもらいました。ただ、やはり考えていくと、ひとつの立場だけでは考えられない部分があります。この地域で働いている立場、事業をしている立場から言えば、まちづくりや経済のことを考えてしまいますので、反対ということになりますが、一方で、子どもの立場で考えれば、いまの小学校は1学年15人程度という状態ですので、明日中等教育学校に進学する子がいることを考えれば、中学校では12～13人のクラスになってしまうかもしれません。やはり親の立場から考えればどうなんだろうと思ってしまいます。個々の中にも様々な立場があって、私自身もひとつの意見に絞るのは難しい状況ですので、この部会として、教育環境の面から考えると、このような意見がありましたというような形にしていただければと思います。

す。教育環境部会として結論がまとめられているから、あなたは統合に賛成なんですね、反対なんですねと言われると、大変厳しいところがあります。さきほど幼稚園関係者からの話にもありましたが、統合に賛成、反対で地域が二分しつつある、ぎくしゃくしつつあるように感じています。教育環境部会として6回の会議を重ねてきましたので、そろそろ部会としてまとめなければならないというのは分かるのですが、議論が煮詰まったのであれば、検討委員会本体に戻して、新たなスタートを切るということも必要ではないでしょうか。

**○事務局** 委員がおっしゃるとおり、学校は多様な側面を持っていますので、どの立場に立つかによって、統合に対する見解というのも変わってきます。そういう意味で、学校統合の是非を議論するのは非常に難しいと思います。委員がおっしゃるように、同一人物でも様々な立場があるわけですから。そうしたこともあって、昨年度の検討委員会でも、様々な立場からの意見が輻輳し、なかなか議論が進みませんでした。そのため、本年度からは、教育環境部会とまちづくり部会に分けて議論を進めてきたところ です。事務局としては、ふたつの部会で、教育環境とまちづくり、それぞれの側面から議論のまとめを行った上で、それを検討委員会本体に上げて、両部会のまとめをすり合わせるような形で、検討委員会としての結論を見出していくような方向を想定しております。教育環境部会としては、まずは教育環境の面から議論を進めていただきたいと思います。まちづくり部会では、まちづくりの側面から、統合の是非に関し議論を進めているところでもありますので、検討委員会本体では、両部会のまとめを踏まえて、総合的な観点から議論する形になろうかと思 います。いずれにしても、検討委員会の検討結果を踏まえて、最終的に統合の是非を判断するのは教育委員会になりますので、部会に参加している皆さんに責任が生じるということではありません。最終的には、教育委員会が責任を持って判断することになります。

**○部会長** 委員が言うように、様々な立場があるのは分かりますが、この部会は教育環境部会なので、保護者の立場で、いま子どもたちが置かれている状況を話すと、子どもからは学校生活がつまらないという話ばかり聞きますし、それが親として切

ないです。皆さん、学校の行事に足を運んだことはあるでしょうか。体育大会も文化祭も閑散とした状況で、うちの子どもも他校の友達を羨ましいと言っています。自分は室蘭で生まれ育っているので、1学年7～8クラスという状況で、いろんなコミュニティがあって、その中で学校生活を送っていました。それを考えると、親として申し訳なく思う部分があります。本日欠席している委員の話も分かりますが、この地域の利点は横の繋がり**の強さ**であって、さきほどの未就学児童の保護者の話にもありましたが、その繋がり**の強さ**に惹かれて、ここに家を建てることに決めたということですから、中学校が無くなれば、住む人が居なくなるというのは必ずしもそうではないのかなと思います。地域の繋がり**の強さ**はこの地区の強みですから、仮に統合で中学校が無くなったとしても、その強みを生かして、この地域が衰退しないように考えるのもひとつだと思います。逆に中学校を残すのであれば、人を増やす方法を具体的に考えなければならないと思います。そうしないと子どもたちが可哀想なので。子どもたちにより良い環境を用意できるのに、親の判断、地域の判断で、子どもたちにつまらない思いをさせているのは違うのかなと思います。私自身、ここに家を建てることを決める時には迷いました。妻には、もう少し人が多い地域がいいのではないかと言われましたが、私としては、コロポックルの森で面白いことをやっているなど、そこに惹かれて選びましたので、必ずしも中学校があるからということではありませんでした。さきほどの未就学児童の保護者の方達も、中学校統合の話があることを知ってもなお、この地域を選んでいきますので。もうひとつ言いたいのは、部会を二つに分けたのが悪いとか、なかなか結論が出せないというのは、厳しいようですが、逃げだと思います。委員を引き受けた以上、周りの意見を聞いて、自分の意見も言って、責任を持って前に進まなければならないと思います。そうした意味でも、部会長としては、この部会として結論をまとめたいと思っています。

**○委員** 事務局からも話があったように、この部会は教育環境の面から議論する場であったはずが、どうしてもまちのことだったり、経済のことだったりに話が及んでしまっています。やはりこの部会では、子どもたちの教育環境にテーマを絞って意見をまとめるべきだと思います。例えば、旧温泉中学校の同窓生の皆さんの話

では、統合によって視野が広がったとか、競争意識が高まったとか、プラス面の話がたくさんありました。この部会としては、そのプラス面を捉えて、議論をまとめていくべきかと思います。その上で、検討委員会本体に議論の場が移った時には、まちづくり部会の結論も踏まえて、私たち自身も議論を広げていけばいいと思います。それともう一点、保護者の皆さんには、議論の経過も含めて検討委員会や部会の結論をお知らせすべきかと思います。その上で、保護者の皆さんの意見を聞くのもいいです。いずれにしても、まちづくりの話に議論がとびがちではありますが、あくまでこの部会としては、子どもたちの教育環境をテーマに意見をまとめるべきだと思います。

**○委員** 私個人なのか、PTA 会長の私なのかによって、発言が変わってくると思います。保護者の間でも意見は割れているように思いますので、例えば、今の段階でアンケートなどをとることができれば、私としても発言しやすくなる部分があるのですが、今の時点でアンケートをとることは可能なのでしょうか。

**○事務局** できないことはないと思いますが、ある程度の方向性が出ていない段階でアンケートをとってしまうと、まさに保護者を二分することになってはしまわないか心配されます。そうならないためにも、各部門からの代表者である皆さんにお集まりいただき、委員会形式をとったところでありますので、委員の皆さんには、それぞれの立場から議論を尽くしていただければと思います。

**○委員** そうですね。保護者にアンケートをとるということではなく、私個人として意見を述べるべきですね。

**○事務局** PTA 会長という立場でご参加いただいておりますので、小学校の保護者がどのような感覚で統合の議論を見守っているのかということは感じられていることと思いますので、そうしたことを踏まえて議論に参加していただければと思います。通常、各部門の代表者で構成する委員会というのは、そのような形なのかなと思います。

○委員 承知しました。

○委員 小学校の保護者を代表して参加しているわけですので、議論するのに必要と考えるなら、PTAとしてアンケートすればいいと思います。温泉中学校の統合の際には、PTAとして保護者にアンケートしていますので。

○委員 教育環境部会としては、子どもたちの教育環境の面から考えるわけですので、その点だけ考えれば、当然、子どもたちにとってはメリットが大きくなると思います。それに関しては、今までの議論で私としても理解しています。ただ、まちづくりのことを考えた時には、地域のことを考えて、違う意見を言わなければならなくなってしまう。そういう意味で、教育環境部会とまちづくり部会を分けたことに非常にいずさを感じています。その点に悩んでいるというのが正直なところでは。

○事務局 個々人にも様々な立場がありますので、議論するにも悩ましいところがあるのは理解しつつも、昨年度、検討委員会全体ではなかなかテーマを整理して議論できなかった経緯がありましたので、本年度は、教育環境とまちづくりで部会を分けて検討を進めています。その趣旨を理解いただいて、議論を深めていただければと思います。次のステージでは、両部会の結論を持ち上げて総合的に議論することになりますので、まずはこの部会では、子どもたちの教育環境という部分に絞って議論していただければと思います。さきほど、教育環境の面では間違いなくメリットがあるという話がありましたが、まさにそこにテーマを絞って議論する場ですので、もしメリットがあるということであれば、その方向性で意見をまとめることになろうかと思います。一方、まちづくり部会では、中学校がまちづくりにどのような役割を果たしてきたのかという点から議論しておりますので、次のステージでは、両部会の結論をまとめる形で総合的な議論をすることになるかと思います。繰り返しになりますが、まずはこの部会では、教育環境にテーマを絞って意見をまとめていただければと思います。

○部会長 委員も言っていましたけど、やはり人数が少ないと経験できないことがあって、仮に小規模校でもその部分を何らかの方法で補完できるならいいんだけど、これまでの議論の中でそうではないことがわかったので、この部会としては、統合の方向で議論をまとめるべきかと思います。子どもの数を増やすといっても、現実的に有効な方法は無いわけだし。やはり、教育環境部会としては、統合の方向で意見をまとめざるを得ないかなと思います。そこで次回までに、部会長として、議論のまとめの案を作って、皆さんにお示ししますので、それを基にさらに議論して、この部会としての結論をまとめていきたいと思います。

○委員 いま部会長が言われた方向で進む前にひとつお願いがあります。これまで様々な方からお話を聞いてきて、統合のメリットというのは理解したように思うのですが、それを明文化したものが無い状況ですので、子どもたちにプラスになる、メリットがあるということをもとめていただければと思うのですが。

○部会長 わかりました。そこも含めて、私の方で、部会としての議論のまとめの案を作って、次回皆さんにお示ししたいと思います。

○委員 この部会として結論をまとめた後は、検討委員会本体で、まちづくり部会の結論を含めて総合的に議論することになるかと思うのですが、委員がおっしゃっているように、私たちが部会としての結論に自信を持って、検討委員会本体で議論できるか問われているように思います。この部会でどのような形で意見をまとめるとしても、私たちとしてはその結論に覚悟を持たなければならないのかなと思います。

○部会長 ありがとうございます。私もある意味覚悟を持って参加しています。私自身、子どものことを考えると、早く環境を変えてあげたいと切に思っていますので、覚悟を持って部会としての結論をまとめていきたいと思います。

○事務局 さきほど部会長から話がありましたように、次回までに、部会長の方で、この

部会のまとめの案を作り、皆さんにお示しするということですので、これができ次第、次の部会を開催したいと思います。作業の進捗状況にもよりますが、何とか9月の早い段階で開催することができればと思っております。日程などについては、書面であらためて案内させていただきますのでよろしくお願いいたします。

**○部会長** それではこれで本日は終了したいと思います。長時間にわたりありがとうございました。また次回もよろしくお願いいたします。お疲れさまでした。